

# Weekly Report

テーマ／メンバー卓話：加藤寛治郎君

■日 時／2010年10月14日（木）7:30～8:30 ■場 所／カトリック布池教会内 聖ヨゼフ館



地域を育み、大陸をつなぐ

2010-11年度国際ロータリーテーマ

地域を育み、大陸をつなぐ

2010-11年度クラブ運営方針

「与え続ける心を持とう」

会 長：青木 昭憲  
副会長：田中 利幸  
幹 事：岡田 浩人  
例 会：毎週木曜日  
会 場：カトリック布池教会内聖ヨゼフ館  
住 所：名古屋市東区葵1-12-23  
電 話：052-935-7790

## 第249回例会（第14回）

### 例会出席率

今 回 (10/14)		前 回 (10/7)		前々回 (9/30)	
会員数	26名	会員数	26名	会員数	26名
出席数	17名	出席数	14名	出席数	14名
欠席数	9名	補填数	2名	補填数	4名
出席率	65.4%	出席率	61.5%	出席率	69.2%

### 斉唱

ロータリーソング『奉仕の理想』

### ビジター紹介

遠藤 友彦 君（ガバナー補佐） 梶川 久雄 君（分区分幹事）  
伊藤 満琉 君（地区副幹事）

### 今月のお誕生日

9日 青木 昭憲 君                      11日 加藤 貞実 さん  
20日 浅野 哲司 君

### 次回例会案内（第15回）

- 開催日時／2010年10月21日 11:00～
- 開催場所／阿部建設株式会社 大森エコタウン  
（守山区今尻町1801番）
- テ ー マ／事業所訪問

## ニコボックス報告

年 間 予 算	前 回 ま だ の 累 計	本 日
450,000円	83,000円	25,000円

伊藤君 本日お世話になります。  
岡田君 本日はガバナー補佐 遠藤様、伊藤様、梶川様よろしく  
お願いします。  
遠藤君 お世話になります。よろしく！  
梶川君 お世話になります。よろしく！  
青木君 遠藤ガバナー補佐、伊藤様、梶川様、本日は早朝より  
ありがとうございます。よろしくをお願いします。  
田中君 同上  
野村君 同上  
加納君 同上  
越野君  
谷口君 日本一に向かって、がんばれ阪神  
藤田君

### 会長挨拶

青木昭憲

青木会長より挨拶がありました。

### 幹事報告

岡田浩人

- ・本日例会後、クラブ協議会を開催致します。出席義務者は役員・理事及び入会3年以内の会員です。その他の方も都合の良い方はご参加ください。
- ・10/21（木）「事業所訪問」阿部建設株式会社  
※会場・時間に変更となります。
- ・10/29（金）ガバナー公式訪問（場所：名古屋東急ホテル）  
11:30～12:30 会長・幹事懇談会 12:30～13:30 合同例会  
※各自クラブ計画書を持参してください。（特に理事メンバーの方はお忘れなく）

## 卓 話

遠藤 友彦 君



- ◆生年月日 昭和10年9月1日(74歳)
- ◆勤務先 乗園寺・川中保育園 理事長  
〒462-0051  
名古屋市北区中切町2丁目61番地
- ◆職業分類 保育園

- ◆ロータリー歴 1981.3.4 名古屋名北RC入会(チャーターメンバー)
- 1986~87 青少年奉仕委員会
- 1989~90 S.A.A
- 1991~92 幹事
- 1995~96 会長エレクトロ・クラブ奉仕委員長
- 1996~97 会長
- 2001~02 IM実行委員長

ポール・ハリス・フェロー  
ベネファクター  
マルチプル米山功労賞

東名古屋分区11クラブの訪問を任せられた本年度ガバナー補佐遠藤友彦と申します。小さな寺の住職をし、小さな保育園の理事長をしています。40数名の会員のこじんまりした名古屋名北ロータリークラブに所属しています。

諸先輩の前でのスピーチは誠に話しづらく存じますが「任に当って他に譲り難し」の言葉もあり、しばらく時間をおかりいたします。

ロータリーに入会する以前の私は、『ロータリーは金持ちの社交の場』という認識しかありませんでした。しかし、しつこく入会を奨められる故先輩夫婦に根負けして入会し、すでに30年を迎えます。心の中では、中に入って単なる「金持ちの社交の場」なのか否かを確認したい気持ちもあったのでしょうか。入ってみると、この選ばれた異業種の職業人の集まりは、個々に尊敬しあうことのできる楽しい会であり、他にみない世界でした。それは、ロータリーを楽しむ一人ひとりが、ロータリーの綱領「奉仕の理想」に生きることを誓った人々の集まりだからでしょう。

その昔、中国の梁の国に仏教に造詣の深い武帝という王様がいました。そこへ印度から新たに仏教伝導の為に達磨大師が渡来されました。早速に、武帝は達磨大師を迎え、問答をされました。「朕は寺を建て、僧を育て、経を写し、仏像を造り、民に施し、国を治めてまいった。大した功德があるじゃろうな」と。大師は即座に答えられた。「無功德」(何の功德もない)と。これは作為された善事で、本当の功德ではないと、示されたのです。

ロータリーの「奉仕の理想」は、この「無功德」にある。だからこそ尊く、「超我の奉仕」といわれる所以でしょう。奉仕の理想に生きるロータリークラブは、自ずと「夢と活力」に満ち、クラブの囲りの人々にもその元気なエネルギーが波及し、「地域を育む」にちがひありません。

1960-61年度RI会長エド・マクローリンの言葉をかりて、結びに代えます。「貴台がロータリーなのです。ロータリーはRIのことではない、ロータリークラブのことでもない、あなた方一人ひとりのロータリアンの心の中に宿るもの、それがロータリーなのです」と。

ご静聴有難うございました。